



ANA Cargo

ANA Cargo Base

Service Guide

ANA Cargo www.anacargo.jp

Cargo 8 ANA



2024年10月「ANA Cargo Base +」始動

New Start, New Future ここから変わる、新しい未来へ

ANA最大規模の貨物上屋となる、「ANA Cargo Base +」が2024年10月より稼働。成田空港内に分散していた貨物上屋機能を「ANA Cargo Base +」に集約。最新の設備により、効率性の高い新たなオペレーションを開始します。多様化する輸送ニーズに応え、高品質なサービスを提供するためにこれまで国際品質認証の取得や、システムの刷新、デジタルトランスフォーメーション(DX)などを推進してきたANA Cargo。「ANA Cargo Base +」では、最先端技術を活用した作業の自動化や、温度管理施設の拡充により、オペレーション品質のさらなる向上を図ります。ANA Cargoは、航空物流に新しい価値を創造し続けます。

ANA Cargo Base +

とは

これまでの第7貨物ビルに加え新たに第8貨物ビルを増設し、広いスペースを活かした上屋機能の充実や利便性の向上など、時代の変化に応じて新たな付加価値を次々と生み出していくことを「+」に込め、名称を「ANA Cargo Base +」としました。

成田の地から今、 新たな物流が始まる

ANA最大の貨物上屋となる成田空港第8貨物ビルと、隣接する第7貨物ビルを一体的に集約した「ANA Cargo Base +」の合計面積は、これまでより約1万平方メートル広い約4万8000平方メートルへと拡大。十分なスペースを確保し、より多くの貨物の取り扱いが可能に。

最先端の設備を導入した「ANA Cargo Base +」を舞台に、ANA Cargoは
 「お客様の利便性の向上」
 「多様化する輸送ニーズへの対応」
 「サステナブルな未来のために」の
 3つをテーマに掲げ、より高品質なサービスを提供するとともに、
 未来をひらく新たな物流を追求していきます。

Point 1
お客様の利便性の向上
 ANA最大の上屋でのハンドリングにより処理能力が大幅に拡大し、よりスピーディで安全なサービスを提供
 詳しくは P.07

Point 2
多様化する輸送ニーズへの対応
 最新の温度管理設備とプロフェッショナルなケアで、様々なニーズにお応えする安定したANA品質を提供
 詳しくは P.09

Point 3
サステナブルな未来のために
 最新の技術と環境に優しい設備で新しい未来を創造
 詳しくは P.13



ANA Cargo Base + の特徴

「ANA Cargo Base +」には、
先端テクノロジーを活用した最新の設備や高度な機能が備わっています。
大幅な時間短縮を可能にする効率的なハンドリング体制や、
国内の航空会社で初となる先駆的な機器の導入により、「新たな物流」を実現します。
数字やキーワードから見る、ANA Cargo Base +の特色と強みをご紹介します。

約**6万** ANA最大の
貨物上屋
1000m²※



※延べ床面積

+25%

取り扱い規模
が拡大



温度管理施設面積
成田空港の現行上屋の



1644m²

温度管理施設面積
(医薬品専用庫732m²+温度管理庫912m²)



貨物地区内の上屋

6カ所から

**ANA Cargo
Base +へ集約**



日本の航空会社 **初**

AGV※
導入



※AGV:自動搬送車

三国間の接続時間

180分に
短縮

最大**40%**短縮



トラックの
待ち時間
短縮



手倉サービスで

時間短縮
コスト削減



ZEB
Oriented
取得※



※成田空港が取得

Point 1 Enhancement of Customers' Convenience

お客様の利便性の向上

最新技術を駆使した作業効率化によりスピーディで安全な貨物輸送サービスを提供

成田空港第8貨物ビルは2階建てで、延べ床面積は約6万1000平方メートル。

このうち上屋面積は約3万8000平方メートルを占めます。

第8貨物ビルの稼働により、成田空港におけるANA Cargoの貨物の取り扱い規模は従来比で125%に拡大しました。十分なスペースの確保に加え、ハンドリング体制の効率化により、オペレーション品質のさらなる向上を図ります。

ANA Cargoは、第8貨物ビルに設置した最先端技術に基づく設備を活用し、作業の効率化をより一層進めるとともに、スピーディで安全なオペレーションを追求。お客様にとってさらに便利で使い勝手の良い、高品質な貨物輸送サービスを提供します。



ANA 最大の貨物上屋

約6万1000m²
※延べ床面積

+25%
取り扱い規模が拡大

貨物地区内の上屋
6カ所から
ANA Cargo Base +
へ集約

三国間の接続時間
180分
短縮
最大40%短縮

1 貨物上屋の集約により接続時間を短縮し、利便性を向上

上屋ハブ機能が強化

- これまで空港内に分散していた上屋を集約することで、お客様との貨物の受け渡しが1つの上屋で完結

三国間貨物の取り扱い強化

- 三国間貨物の発着作業も同一上屋で行うことが可能となり、接続時間が従来の300分から最大180分に短縮
- 需要が高まる欧米＝アジア間の三国間貨物輸送の利便性を高め、国際競争力を向上



2 トラックのアクセス導線がシンプルになり待ち時間の軽減を実現

トラックドックマネジメントシステムで道路混雑を緩和し、安全を確保

- 成田空港が導入を推進し、すでに輸出貨物で稼働中のトラックドックマネジメントシステム(車両の事前予約、呼び出しシステム)を、2024年11月から輸入貨物にも導入予定
- 貨物地区構内のトラック待機における混雑緩和や安全性向上
- 本システムの導入により、ドライバーが待ち時間や待機台数の把握をすることが可能に

貨物ゲートを新たに設置しダイレクトなアクセスを可能に

- ANA Cargo Base +に近接する場所に、貨物ゲートを新たに設置
- 空港外部から、ANA Cargo Base +がある成田空港貨物ターミナル地区へのダイレクトなアクセスが可能となり、利便性が向上



3 お客様に寄り添った手倉サービスを提供時間短縮や配送コスト削減も可能に

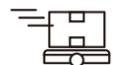
- 検尺・計量・ラベリング・保安検査などを、航空会社の上屋で一括に対応する手倉サービスを提供
- 航空会社の上屋で行うことで、リードタイムの短縮、破損リスクの軽減、輸送コストの抑制を実現
- 鮮度が重視される生鮮から、特殊な梱包が必要なコンサート機材など、幅広い分野の貨物が取り扱い可能に

新しいオペレーションによる貨物ハンドリングの流れ

デジタル技術を駆使した効率的なハンドリングで、お客様の貨物を正確かつスピーディに運びます。

■ 輸出

トラックから取り卸し後、AGV(自動搬送車)にて積み付けエリアに自動搬送



貨物輸送用コンテナなどのULDに積み付けられた貨物は計量後、コンテナ自動搬送・自動管理システム(CHS)へ



航空機まで搬送



■ 輸入

航空機から取り卸された貨物は、輸入エリアにて解体作業を実施



解体後、AGF*を用いてシステム制御された自動ラックに保管。在庫管理とスピーディな入出庫が可能



*AGFとは、Automated Guided Forkliftの略で、システム制御された無人フォークリフト



多様化する 輸送ニーズへの対応

温度管理施設面積
成田空港の
現行上屋の

5倍

温度管理施設面積

1644m²

(医薬品専用庫732m²
+温度管理庫912m²)

医薬品専用庫を含む温度管理施設や 動物専用庫を拡充し、幅広い輸送ニーズに対応

生鮮品や医薬品をはじめとする特殊貨物輸送に対応する最新設備を備えた第8貨物ビル。

ANA Cargoでは、高品質なオペレーション体制を軸に、様々なニーズにお応えするサービスや商品を提供します。



国際規格に準拠する設備で 温度を徹底管理

既存施設より大幅に面積を拡張し、温度管理貨物輸送への旺盛な需要に対応するとともに、IATA CEIV PHARMAに準拠する医薬品専用庫を設置。貨物特性に合わせたハンドリングを実現します。また医薬品専用庫、温度管理庫のそれぞれに、冷凍・冷蔵・中温の3温度帯を用意。全室での温度マッピングを実施するとともに、国際輸送ガイドライン(IATA TCR、PCRなど)に準拠した高品質なハンドリングを提供します。



徹底的な温度管理で 衛生管理に対応する医薬品専用庫

日本で輸出入される多くの医薬品が取り扱われる成田空港において、冷凍・冷蔵・中温の3温度帯に対応した医薬品専用庫を設置しました。ANAの豊富なネットワークを利用し、日本発着貨物のみならず、医薬品輸送の需要が旺盛な欧米=アジア間など、成田空港を経由する輸送にも対応しています。IATA CEIV PHARMAに準拠し、徹底的に品質管理された本施設において、専門の教育を受けたスタッフによる医薬品専用ハンドリングを実施します。ANA Cargoは医薬品のサプライチェーンに携わる一員として社会的責任を果たすべく、お客様の要望に応じた高品質な医薬品輸送サービスを提供します。

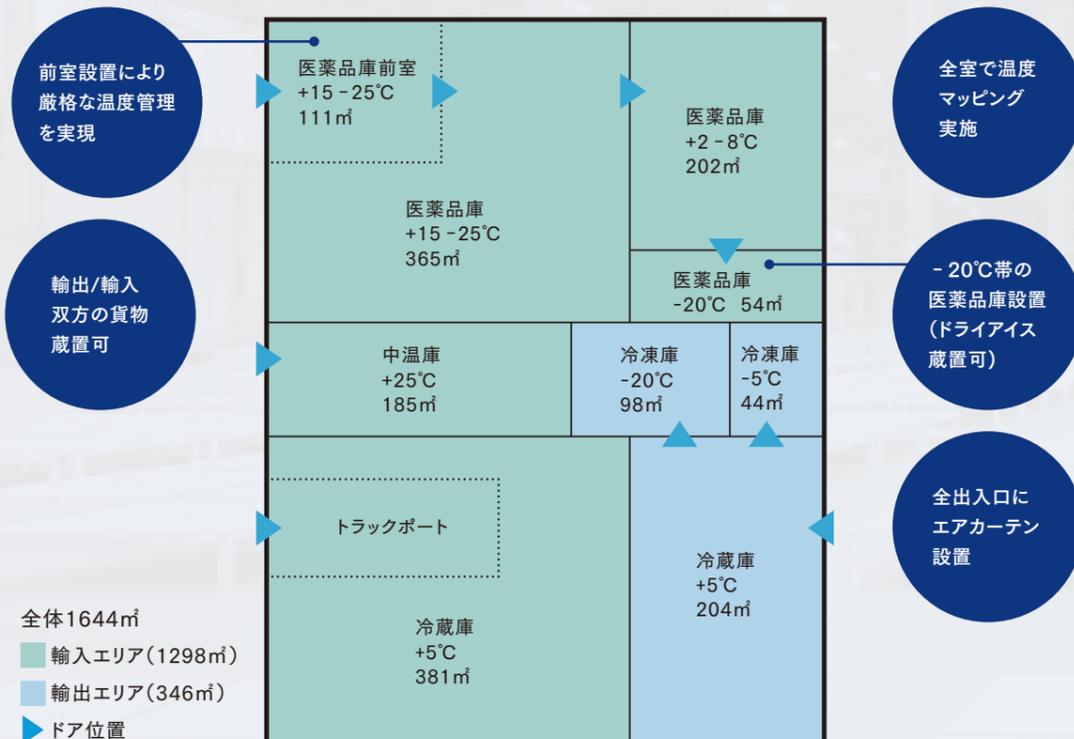


- 前室の設置により、庫内の厳格な温度管理を可能に提供温度帯：-20℃、+2-8℃、+15-25℃
- 徹底的な衛生管理
定期清掃に加え、電動フォークリフト/パレットなど庫内専用備品を使用
- 全室で温度マッピングに基づく温度モニタリング機能の設置
温度状況を24時間監視。医薬品の品質を守り、万一の逸脱発生時には警報により関係各所に到達
- ドライアイスを含む貨物の取り扱いも可能に
- アクティブコンテナ用充電設備を完備
- 医薬品専用庫内でのULD積付/解体サービスを提供



写真はイメージです。

■温度管理施設レイアウト図



医薬品専用ハンドリングで品質を守る



医薬品の特性に応じた多様なサービスを提供するANAの医薬品輸送専用商品。厳格な温度管理に加え、迅速で確実な輸送など、お客様の様々なご要望にお応えし、安心の輸送を実現します。



ANAは2017年に日本の航空会社として初めてIATA CEIV PHARMA認証を取得しました。本認証はIATAが策定した医薬品の航空輸送に関する品質認証プログラムであり、GDP(適正物流基準)に適合した国際統一基準により、医薬品輸送における安全性、セキュリティ、コンプライアンス、効率性を確保しています。ANAでは、医薬品専用輸送マニュアルの整備、リスク評価に基づいた品質管理体制、社内スタッフへの医薬品輸送教育の徹底などを行うことで、CEIV認証基準に準拠した医薬品輸送サービスを提供しています。

多様化する輸送ニーズへの対応

様々な温度帯に対応し 高品質なサービスを提供する温度管理庫

温度管理貨物の輸送需要が多い成田空港。第8貨物ビルには、冷凍・冷蔵・中温の3温度帯に対応する、品質、面積ともに充実した温度管理庫を設置しています。品質面ではIATA CEIV FRESH基準に準拠し、温度マッピングを実施するほか、温度モニタリング機能も完備。

ANA Cargoは、高品質な施設とオペレーション体制に加え、充実したネットワークを利用し、生鮮品ならびに半導体関連品、化学品など、温度管理が必要な貨物の輸送ニーズにお応えします。

- 生鮮品、化学品など、航空輸送において高まる温度管理貨物の需要に対応
- 冷凍・冷蔵・中温の3温度帯を用意 (-20°C、-5°C、+5°C、+25°C)
- 全室で温度マッピングに基づく温度モニタリング機能の設置
- アクティブコンテナ用充電設備を完備
- +5°C庫にて輸入トラックポートの設置により、温度管理状態のままトラックへの積込が可能
- 温度管理庫内でのULD積付/解体サービスを提供



動物へのストレスを軽減する 専用の保管施設を設置

- 外界の光や人・物の動きに影響されにくい環境で、動物のストレスを軽減
- 空調設備により適温を維持 (23°C前後)
- ご希望の場合、犬もしくは猫への給餌、給水、写真撮影サービスを提供



お客様の動物を大切にお預かりし、 安全に目的地まで輸送



大型動物から小型のペット輸送まで対応します。ボーイング777貨物専用機では馬などの大型動物の輸送に対応。需要の高い犬・猫のペット輸送では、お客様からご要望の多い餌補給や飲み水補給、写真撮影をオプションサービスとして行います。動物の航空輸送における安心・安全の輸送品質を提供します。



保冷コンテナを使用しない生鮮品輸送サービス



日光や温度変化に敏感な生鮮品の鮮度を保ちつつ、豊富なネットワークで世界各都市に届けます。

温度管理コンテナを用意。 医薬品以外の様々な貨物に対応



各種アクティブ型・パッシブ型温度管理コンテナを用意。化学品、乳製品、冷凍品など幅広い貨物に対して、一貫した温度管理輸送を提供します。



2 プロフェッショナルユニットによる 万全のオペレーション体制

2023年7月に発足したANA Cargoのプロフェッショナルユニットは、特殊貨物の安全輸送に特化した高度なオペレーションを担うチームとして、豊富な経験を持つメンバーで構成されています。「壊さない」「無くさない」「遅れない」に基づいたノウハウを駆使し、ジャパノクリティを世界に届けるための取り組みを推進。さらに、将来的にAIやロボット技術を積極的に導入し、さらなる効率化と安全性の向上を目指して、物流業界の未来を切りひらいていきます。



その他ご利用可能なPRIO商品



予約は出発の120分前まで、受託は出発の60分前まで可能。さらに、到着から90分以内に引き渡し可能に。予期せぬお急ぎ貨物に対応します。



サイズ、重量、対象品目に制限なく、予約便への100%の搭載を保障。お客様の「届けたい」を最優先で実現します。



衝撃リスクに配慮したハンドリングを実施することで、ショックウォッチ、ティルトウォッチ付きの半導体製造装置や医療機器などの輸送に対応します。



熟練スタッフと当社ネットワークを活用した自動車輸送。コンパクトカーからSUVまで幅広く対応し、モーターショーから試験用まで、世界各地の各場面へお届けします。



美術品や楽器など、特別な配慮を要する貨物のためのサービス。衝撃防止など貨物の特性に応じた対応とセキュリティ対策により、デリケートな貨物を安全に輸送します。



ANAは2023年に日本の航空会社として初めてIATA CEIV FRESH認証を取得しました。本認証はIATAが策定した生鮮品の航空輸送に関する品質認証プログラムであり、HACCP(危険度分析による衛生管理)に適合した国際統一基準により、生鮮品輸送における安全性、セキュリティ、コンプライアンス、効率性を確保しています。ANAでは、生鮮品専用輸送マニュアルの整備、リスク評価に基づいた品質管理体制、社内スタッフへの生鮮品輸送教育の徹底などを行うことで、CEIV認証基準に準拠した生鮮品輸送サービスを提供しています。

Point 3 For the Sustainable Future

サステナブルな未来のために

ANA Cargo Base +では、サステナブルな物流事業を実現します

ANA Cargoでは、持続可能な社会の実現と企業価値向上を目指し、「環境(Environment)」、「社会(Social)」、「ガバナンス(Governance)」に配慮したESG経営を推進しています。「ANA Future Promise」のローガンのもと、お客様のご理解ご協力をいただきながら一体感のある取り組みに発展させ、SDGsの達成を目指します。よりサステナブルな物流の実現に向けた、「ANA Cargo Base +」での最新の取り組みをご紹介します。

日本の航空会社初！

AGV 導入

※自動搬送車

ZEB Oriented 取得

※成田空港が取得



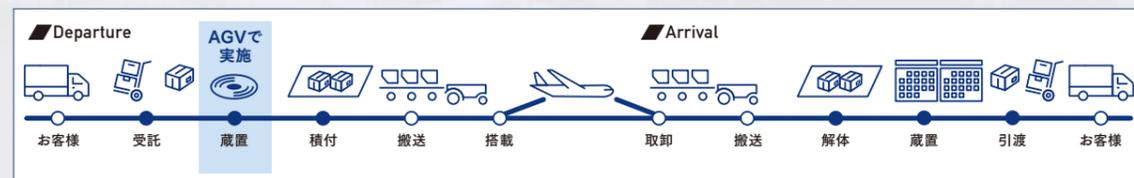
1 自動化を推進しスマートなオペレーションを実現 生産性向上に加え、働き手のウェルビーイングも向上

ANA Cargoは第8貨物ビルのオペレーションにおいて、日本の航空会社で初めてAGV(自動搬送車)を本格導入しました。自動化を推進することで、効率的で安全な貨物運搬を実現するとともに、働き手にとってより働きやすい就業環境を追求し、よりサステナブルな物流の実現に努めています。



- 従来の作業をAGVで実施し、スマートな空港貨物上屋オペレーションを実現
- AGVは長時間の稼働が可能のため作業が大幅に効率化
- AGV導入により人的エラーを低減し、安全性を向上
- 生産性の向上や、働きやすい施設の充実、働き手のウェルビーイングにも寄与

■AGVを導入した新しいオペレーションによる貨物の流れ



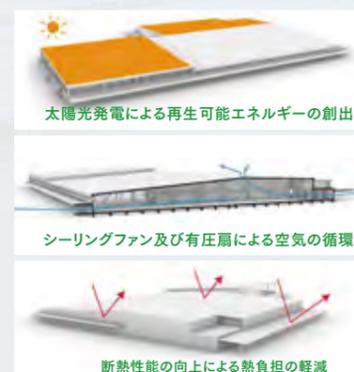
2 環境に配慮した設計で省エネルギーを実現

成田空港では脱炭素化推進の取り組みの1つとして、建物の新築時にはBELS(※1)に基づいたZEB(※2)化を目指しています。第8貨物ビルは高効率の空調設備や断熱性能の高い建材の採用等により「ZEB Oriented」認証(※3)を2023年7月28日付で取得。加えて、太陽光発電システムの導入による「創エネ」を実施しています。



※1 BELSとは
BELS(Building-Housing Energy-efficiency Labeling System)は、建築物省エネルギー性能表示制度のこと。国土交通省が主導する建築物の省エネルギー性能に特化した第三者評価機関による認証制度であり、星の数で5段階評価が行われる。
※2 ZEB 及び ※3 ZEB Orientedとは
ZEB(Net Zero Energy Building)は、快適な室内空間を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの取支をゼロにすることを目標とした建物。ZEB Orientedは、延べ面積が10,000㎡以上の建物において、基準一次エネルギー消費量から40%以上もしくは30%以上省エネルギーを実現した建物のこと。

■省エネ対策に係るイメージ(一例)



New Start, New Future

ここから変わる、新しい未来へ

ANA Cargo | 選ばれる、総合航空物流会社へ

ANA Cargo ウェブサイトはこちら ▶



■施設概要

住 所：〒282-0021 千葉県成田市駒井野字広田936
規 模：鉄骨造2階建
延べ床面積：約6.1万㎡(うち、上屋面積：約3.8万㎡)
取扱貨物：輸出貨物、輸入貨物、三国間貨物、国内貨物
特殊施設：医薬品庫、保冷库、動物庫 他

